

CAMPUS KOSEI

キャンパス こうせい

vol.27



2012年プロ野球ドラフト会議



(株)みちのく銀行との連携・協力協定締結



日韓交流おまつり2012 In Seoul

— Contents —

■ 八戸大学

- ・(株)みちのく銀行と農業経営者育成に係る協定締結
- ・八戸市環境・健康フェスタ2012健康まつり&環境展
- ・日韓交流お祭り2012in Seoul
- ・第32回八戸大学「秋桜祭」開催

■ 八戸短期大学

- ・第42回八戸短期大学「光華祭」開催
- ・平成24年度ボランティアディを開催

■ 光星学院高等学校専攻科

- ・安全ラリー大会開催
- ・介護福祉科 研修旅行

■ 光星学院高等学校

- ・第43回光星祭開催
- ・2012年プロ野球ドラフト会議
- ・インターアクト部 プラハへ

■ 光星学院野辺地西高等学校

- ・創立40周年記念式典・記念講演举行
- ・のへじ祇園祭り参加
- ・第38回野西祭開催



野西高 創立40周年記念式典・記念講演举行

株式会社みちのく銀行と連携協力協定締結

八戸大学は平成24年9月28日、産学の連携を通じた地域産業の振興に寄与することを目的として、株式会社みちのく銀行と連携協力協定を締結した。これは、研究シーズや企業ニーズに関する情報等

を用いて相互に協力することで、より効果的に地域経済の活性化と社会の発展に貢献するための協定である。

調印式には、大学側から中村覚理事長、大谷真樹学長、丹羽浩正副学長、みちのく銀行側から杉本康雄代表取締役頭取、加藤政弘取締役常務執行役員、古川博章執行役員八戸営業部長が出席、大谷学長と杉本頭取が協定書にサインをし、今後の連携に向けて握手を交わした。

大谷学長は、大学で現在開設している農業経営プログラムの実践教育充実のほ

か、全国から農業を目指す若者が集まるようにすることで、青森県の人材育成を推進したいなどの抱負を述べた。また、杉本頭取は、農業技術を学んだ後は販路の拡大などビジネス面が課題となる、連携を強化して取り組みを進めたいと述べた。



「ビジネスナイト SCHOOL」開講

総合研究所では、青森県三八地域県民局からの委託（社会人等を対象としたビジネススクール運営事業）を受け、地域企業の経営者や社員等を対象としたセミナー「ビジネスナイト SCHOOL」を開講している。

このセミナーは地域企業の活性化を目的に経営改善や人材育成、社員健康維持、ビジネスコミュニケーションなど、実践的なテーマで実施している。

これまでに「ビジネス英語」、「経営改善」、「ビジネスマナー」、「勤労者のメンタルヘルス」、「マーケティングトレーニング」の5講座を開講した。

講師は本学教員や総合研究所の客員研究員などが務め、会場は八戸ポータルミュージアムはっちや八戸商工会館を利用しており、平日の夜に1回90分で全10回程度の講座を実施している。ビジネススキルを向上させたい社会人の方を対象としており、受講料は無料で、8回以上受講された方には独自の修了証を発行している。定員は各講座15名程度の少人数制で、延べ80名の様々な職種・年代の方が受講している。このセミナーは聞くだけの講義だけではなく、グループワークなども取り入れて、実践的な内容を展開

している。

同じ受講者が複数の講座を受講していることもあり、平日の夜の時間を有効活用してビジネススキルの向上を目指している。講座は週1回程度の開講となっており、受講者への負担も少ない。このセミナーを通してビジネススキルを向上させるだけではなく、異業種交流の場にもなっている。

受講者からは、「学べる機会が少ないテーマだったので、大変勉強になる」「来年も同じテーマで開講してもらいたい」「次回は他の社員を受講させたい」といった声をいただいており、好評である。このセミナーを通して地域企業等のニーズを探る機会にもなり、今後の地域貢献活動に役立ていきたいと考えている。ビジネスナイト SCHOOL は、来年3月までに3講座を開講予定である。



日韓交流おまつり2012 in Seoul

平成24年10月3日(水)韓国ソウル市コエックス展示場において「日韓交流おまつり2012 in Seoul」が開催され、本学から大学生6名(ビジネス学部3名、人間健康学部3名)、短大生3名(ライフデザイン学科)、引率職員1名の合計10名が派遣された。

このイベントは、2005年の日韓国交正常化40周年を記念して定められた「日韓友情年」から始まり、今年で8回目を迎える。日韓のお祭り交流を通じて相互理解の促進を図ることを目的とし、今回は、青森ねぶたと五所川原立佞武多及びその囃子方が披露された。外務省から日本の復興と頑張っている姿をアピールするため、東日本大震災の被災地からの学生を

招聘する案内があったことから、今回の派遣に至った。

特設会場に設けられた被災地交流ブース(きずなブース)では、岩手県宮古水産高校や福島県橘工業高校の生徒とブースを運営した。私達は青森県のPR活動として、青森ねぶたの着付け撮影会を行った。学生達は、自ら訪れた方に着付けをしなければならないため、同行した青森市の方にねぶた衣装の着付けを習い、悪戦苦闘しながらも一生懸命取り組んだ。初めは、なかなか人が集まらず苦戦したが、一人またひとりと徐々に着付けする方が現れると、次から次へと準備待ちができるほど大忙しだった。韓国の方がねぶたの衣装に身を包み、満面の笑みで撮

影している姿がとても印象的だった。

夜になると会場を屋外に移し、青森ねぶたと五所川原立佞武多の競演会が行われた。青森ねぶたは、ソウル市が所有する「暫」を展示し、五所川原立佞武多は新作の「剛力項羽」が展示され、学生達は、ソウル市民や観客を巻き込み、日本人も韓国人も関係なく、大きな輪をつくり大いにお祭りを盛り上げてくれた。

今回のイベントを通じて、あらためて両国のエネルギーとお互いを尊重し合う気持ちを体験そして実感することができた。学生達には、この貴重な体験を活かし、今後の学生生活に役立ててほしい。



外郭3団体 後援会 同窓会 父母の会 総会開催

八戸大学同窓会評議員会が平成24年7月6日(金)に八戸大学・八戸短期大学総合研究所市内オフィスで開催された。昨年



度・今年度の事業報告・計画等の各議案について、全て承認された。また、役員改選が行われ、堤会長のもと新体制で同窓会30周年に向けて取り組んでいくこととなった。

八戸大学父母の会総会が平成24年7月7日(土)に八戸学会館で開催された。昨年度・今年度の事業報告・計画等の各議案について、全て承認された。総会后、カレッジアドバイザーによる個人面談が行われ、面談を希望し

た保護者は担当のカレッジアドバイザーに、教務(成績関係)・学生生活・就職等々に関して、熱心に様々な質問をし、有意義な面談が行われた。

八戸大学後援会理事会在平成24年7月7日(土)に八戸ワシントンホテルで開催された。山田政信会長が後援会としての役目がいかに大事かということを感じており、皆さまのご理解ご協力をより以上にお願ひしたいと挨拶した。昨年度・今年度の事業報告・計画等の各議案について、全て承認された。

また、各会において大谷八戸大学長が挨拶し、大学の改革や取り組みについて説明し、ご理解とご支援をお願いした。

教員免許状更新練習行われる！

平成21年度から始まった教員免許状更新制度を受けて、今年も大学・短期大学において8月3日(金)から7日間の日程で更新講習を開催した。この制度は教員免許の有効期間を10年間とし、更新時には2年間で30時間以上の講習受講を義務づけるもので、講習は文部科学省の認定を受けた大学が実施、県内では本学のほかに弘前大学等で開催されている。

青森県南はもとより岩手県北をも含めたこの地域で、最も多くの種別の教員免許課程を有する高等教育機関として昨年に引き続いての開催となったが、徐々に浸透してきたためか今年は延べ700名もの先生方が受講、平成21年度からの受講者累計は、すでに2000名を超えている。

今回、本学では必修1講習及び選択9講習を開講したが、定員充足等により申



し込みをお断りした講習もあったことから、今年2回目の講習として本年12月に開催するための準備作業を進めているところである。

平成24年9月14日(金)に、八戸市鷗盟大学の移動講座が、八戸大学・八戸短期大学総合実習館で開催され、同大学の1年生約90名が来学した。鷗盟大学は、高齢者の生涯学習を推進する目的で八戸市が運営する団体である。学生は市内在住の満60歳以上の方々であり、八戸市総合福祉会館を拠点に、2年間の課程で生活福祉等を学んでいる。この「移動講座」は、八戸大学・八戸短期大学総合研究所と八戸大学学務部学務課が窓口となり、講座を開催している。



八戸鷗盟大学移動講座開催

当日は吉田稔学長補佐による歓迎の言葉に続き、光星学院高等学校専攻科の永井英代教諭と松橋とし教諭による講義が行われた。テーマは「ボディメカニクス」で、832教室でビデオ学習を行った後、基礎・成人看護実習室へ移動し、「寝たまの着衣交換」の実習を行った。介護者は腰痛症等に陥らぬよう健康管理を徹底

し、利用者に安全安楽に技術が提供できる心構えが必要である。実習では介護者と利用者(左片麻痺)に分かれ、寝間着の交換方法、ベッドから車いすへの移乗を体験し、介護技術のコツを身につけた。

昼食後は体育館に移動し、八戸短期大学の橋本妙子教授がラジオ体操についてそれぞれの動作を詳しく解説して、より効果的に体操が行えるよう指導した。参加者は実際に体を動かし汗をかきながら、真剣に取り組んでいた。



閉校式では参加者を代表して鷗盟大学の学生代表がお礼の言葉を述べ、吉田学長補佐が講評を行った。また、昼食に学生食堂を利用したり、昼休みには希望者が大学のキャンパスツアーを行うなど好評のうちに終えることができた。

秋桜祭 in 八戸大学 ～一步前進！～

10月27日(土)・28日(日)美保野キャンパスにおいて八戸大学「第32回 秋桜祭」が開催されました。

今年は、「Revival 一步前進」をテーマに、各学部の研究展示・健康チェックコーナーや今年新たに出来た「写真サークル」の作品展、毎年恒例の模擬店等を出店し、各種イベントでは、お化け屋敷をはじめ、「Rock in 8 doors'12」のステージに光星学院高校OBの山本雅也さんがライブを行うなど各会場とも賑わいをみせていました。

今年は、昨年3月11日に起こった東日本大震災の爪痕が残っている状況の中

「復興」「元気づける」という想いからこの秋桜祭を通じて、八戸大学から元気を発信して、八戸市、そして東北が活気あふれるよう盛り上げていきたいという願いを込めて開催いたしました。

我が八戸大学も来年4月から「八戸学院大学」と名称が変更されます。まさしくテーマの通り新しい一步を踏み出すことになり、学生たちもその一步を踏み出すために一丸となって準備をすすめてきた学園祭です。

来場された多くの方が「一步前進」を感じ取って頂き笑顔になって頂けたと思います。



八戸大学 人間健康学部

八戸短期大学 看護学科

三八地域を対象とした健康調査を実施

青森県は市町村と連動し、少子・高齢化社会の中で全ての市町村民が健康で明るく元気な生活ができる社会の実現に向けて、「健康日本21」計画の市町村版が制定されている。三八地区における各自治体においても、健康づくり運動を推進する計画を策定し、高齢者の健康および体力づくり運動の推進を行っている。この運動は健康寿命の延伸事業に関連して

おり、重要な課題と位置づけられている。本学では平成19年度より体組成測定、筋力測定の実施をし、住民の体力づくり運動に寄与してきた。最近では骨密度測定、簡易貧血装置によるヘモグロビン値測定や栄養面、心理面のアンケート調査などを新たに加え、住民の身体的、心理的な健康状況を把握し、今後の健康増進、健康寿命の延伸のための健康づくりや体力づくりの推進の一助を目的として活動している。



今年度は八戸市(9/30)、南部町(10/7)、八戸大学学祭(10/27～10/28)で実施した。今後は洋野町(11/3)、階上町(11/4)

での調査を予定している。八戸市の「健康フェスタ」には毎年200名を超える住民が来場する人気イベントコーナーとなっている。南部町の調査では約160名が来場し、測定会場は賑わった。



わくわく

オープンキャンパス

今年度のオープンキャンパスのテーマは「わくわく」、これまでキャンパス内を自由に散策するキャンパスウォークやクラブ・サークル紹介などが行われてきました。

9月29日(土)に行われた3回目のオープンキャンパスでは、アーティスト山本耕一郎氏を講師に迎えわくわく講話や体験授業が行われました。

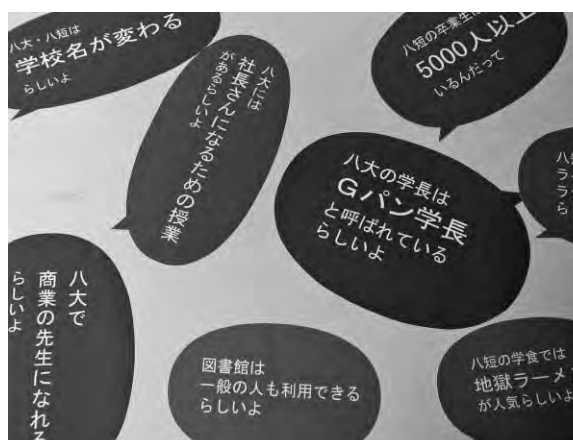
「俺のわくわく人生～最後は人間力～」と題した講話では、山本氏が手がけてきた八戸ポータルミュージアムはっちでの取り組みや、現在八戸市南郷地区で行っ

ている「南郷アートプロジェクト～山本さんち～」を紹介しました。この他にも全国各地で多くの人と直接関わって作品を作りあげていくアートプロジェクトを行っており、「最終的には『人間力』がものを言う、大学・短期大学進学は人間力を磨くスタートラインです。様々な人と触れ合って、様々なことに積極的に挑戦し、人間力＝人との繋がりの輪を広げてください。」と講話を締めくくりました。また、今回のオープンキャンパスでは山本氏監修による吹き出しアート「八大・八短のうわさ」や八大・八短とコラボレーションした「わくわく缶バッジ」のお披露目も行われました。

この他にも、八戸大学大谷



学長による「直ゼミ」や看護学科の妊婦体験をはじめとした各学部学科で趣向を凝らした体験授業や、八大生・八短生が高校生と本音で話をするガチトークなど「わくわく」がいっぱいのオープンキャンパスとなりました。



「八戸大学」OB&OG訪問 part27



(株)マルゼン八戸営業所
所長 鳥谷部 孝太郎さん
(16回生)

プロフィール

五戸高校卒、八戸大学商学部16回生。大学卒業後、(株)マルゼンへ入社。盛岡営業所勤務を経て、平成17年八戸営業所長となる。平成24度から八戸大学サッカー部OB会副会長も務めている。

■学生時代の思い出を聞かせてください。

やはり部活動ですね。私はサッカー部に所属していましたが、1・2年生

の頃はキャンパスの隅にグラウンドがあり、ボールが見えなくなるまで練習した思い出があります。三年生からは、雑草や石ころがなく照明まで付いている学生会館の裏のグラウンドで練習する事ができ、嬉しさを感じたことを覚えています。そんな環境の中、4年生の時には、大学スタッフの皆さんを始め、先輩や後輩、また周囲の皆さんの力もあり、八戸大学サッカー部で初の全国大会出場(天皇杯)を果たすことができました。仲間たちと喜びを分かち合った事が最高の思い出です。

■社会に出て心がけている事は何かありますか？

人との繋がりで。その中でも「思いやり」の気持ちを大切にしています。相手の事情、状況などを考えて発言や行動をする事を心がけていますね。「ありがとう」や「お疲れ様」など、簡単な挨拶ひとつでも「思いやり」は簡単に伝えることができます。「思いやり」を繰り返す事で人との繋がりができ、その繋がりが

は確実に自分の財産となると考えています。

■後輩たちへのメッセージを

以前と比べ学部も増え、設備環境が整い、充実したキャンパスライフを過ごさせているのではないのでしょうか。学生時代はチャレンジする時間が沢山あります。様々な事にチャレンジして下さい。そして、ただ楽しいだけのキャンパスライフではなく、「素晴らしいキャンパスライフだった」と振り返ることができる学生時代にして欲しいと思います。

■八戸大学サッカー部OB会から

日頃より八戸大学サッカー部OB会へご理解とご協力頂きまして誠にありがとうございます。今年は、皆様の協力のもとで様々なイベントをさせて頂き、本格的なOB会活動の始まりを感じております。今後も八戸大学サッカー部が素晴らしい成績を残せるよう、学生へのこれまで以上の熱い声援とご協力を、関係者の皆様をお願い申し上げます。また今後とも、八戸大学サッカー部OB会へご理解とご協力をお願いいたします。

第42回光華祭

第42回八戸短期大学光華祭が平成24年10月27日(土)と28日(日)の2日間にわたり、盛大に開催された。今年度は、「キラ☆光華祭八短なう。」というテーマを掲げ、学生祭実行委員会を中心に約2ヶ月間にわたり準備をしてきた。

光華祭の企画は、学科企画とゼミナール・サークル企画に分類される。学科企画では、各学科の特色を活かした企画が



揃った。幼児保育学科では、手作りこどものへや、美術作品展示、ハンドベル、ピアノコンサート、手作りえほん&展示会、附属幼稚園作品展示などを企画。ライフデザイン学科では、デジカメ印刷工房、親子料理教室、八短キャンパスラジオ、ニュースポーツ体験を企画。看護学科では、在宅看護&介護体験、妊婦体験、アロマ手浴、チビッコルームの企画を揃えた。八短キャンパスラジオを運営したライフデザイン学科の学生達は、キャンパスの様子を随時放送し、光華祭を大いに盛り上げていた。ゼミナール・サークル企画は、ステージ企画と模擬店企画に分かれて実施した。ステージ企画では、アンパンマンショー、ウィンドアンサンブルコンサート、ダンスサークル発表、ゼミナール発表を行い親子連れでも楽しめる企画を幾つも揃えた。模擬店企画で



は、B-1グランプリでゴールドグランプリを受賞した八戸せんべい汁の他、ラーメン、豚汁、焼き鳥、おでん、お汁粉、たこ焼きなど、多くの模擬店が揃い学生達が競って腕を振るっていた。

今年度も来場してくださったお客様が笑顔で帰っていただけるよう、学生達は精一杯のおもてなしをして、満足のいく学生祭を終えることができた。



ボランティアデイを開催

10月3日、ライフデザイン学科1、2年生は大震災被災地支援のため昨年に引き続き岩手県久慈市と野田村でボランティア活動を行わせていただいた。同科では「ボランティアディ」と呼ぶ学生教員全員参加による地域貢献活動が必須のプログラムとなっている。午前2班に分かれ、野田村の特別養護老人ホームことぶき荘は昨年6月、10月に続く3回目の訪問とあって旧交を温めるような和やかな雰囲気の中、肩もみ、うた、おどりなどを楽しんでいただき、最後に感動的な全員握手で再会を誓った。久慈市の長内保育園では手遊び、おにごっこなどに加え、アンパンマン、バイキンマンを登場させ、園児大喜びの交流だった。午後は昨年に続き久慈湊小学校を訪問、1年

生は大きく、割れにくい魔法のシャボン玉に挑戦。材料一式を持参し、道具から数種の原料の調査による液作りなどすべて児童が自ら作るよう指導、科学と遊びを合わせて体験するシャボン玉は大興奮の内終了。二年生は体育館でのゲーム、3年生は3グループにわかれての読み聞かせなどを行い、来年もぜひとの強い要望を受け、充実の交流を終えた。準備、事前練習、本番を通じた学生諸君の真剣な活動が同科の方針

のひとつである、「地域との関わりを強化し、地域に貢献する人材の育成を目指す」を体現した「ボランタリーディ」の一日であった。



平成24年度父母の会総会・懇談会

平成24年9月22日(土)に平成24年度父母の会総会・懇談会（八戸短期大学父母の会主催）が八戸大学・八戸短期大学総合実習館で開催された。この父母の会総会と懇談会は、各学科の特色を活かした形で「総会」「学科別全体会」と「個人面談」として開催している。

総会では、会員となる保護者54名に参

加いただき、全ての議案が承認された。

各学科別全体会では、学科の取り組み状況等の説明や各委員会（教務委員会、学生委員会、就職支援委員会）の取り組み状況等の報告が行われ、参加者は熱心に耳を傾けていた。

個人面談では、ゼミナール担当の教員が前期までの成績や学生生活の状況、ゼ

ミ活動の様子などを保護者に詳細に説明。普段知ることができない学生生活での様子を知った保護者は、満足した様子であり有意義な時間となったようである。

父母の会事務局では、年1回の主催となるため、もっと多くの保護者が参加していただけるよう、案内形式や開催内容を検討し、充実していきたい。



求められている人材を目指して — 就職支援講話会 —

平成24年9月26日(水)本学体育館及び211講義室において、幼児保育学科1年生を対象に就職支援講話会が開催された。講師に、本学の卒業生でもある三沢市職員園芳彦氏を招き「就職のために今学校でできること～求められている人材を目指して～」と題して、歌や体操などの実技を取り入れながら、3時間に渡り講演された。

園氏は、自身の生き立ちや保育士を目指したきっかけ、実習中に起こったエピソードなど身振り手振りで熱く語りかけ、保育士になるために短大で勉強してほしいことや身につけてほしいことを厳しく

も温かい言葉で説いていた。学生達は、メモを取りながら熱心に耳を傾け、来年訪れる就職活動に向け、身の引き締まる思いで聴きいていた。

今回の就職支援講話会を真摯に受け止め、一人でも多くの学生が理想とする保育士を目指し、希望する園や施設へ就職できるよう役立ててもらいたい。



学生会主催

安全ラリー 大会開催



自動車科の伝統である、第35回安全ラリー大会が9月14日(金)に開催されました。この大会は、「交通規則を守る運転により、安全運転に対するモラルの向上」を目的に毎年行われています。1チーム2～4名が1台の自動車に乗り、開会式後に渡される制限速度や、距離、交差点などが記入されたコマ地図を見ながら走行し、途中に設けてあるチェックポイントでチェックを受け、あらかじめ決められた

時間に近いタイムでゴールできるかによって競われます。今年度は、11チームがスタートしましたが、地図を見間違え、道に迷って失格したチームもあり、10チームが無事にゴールしました。今年度は、1年生の前田・菅原チームが59秒差で優勝しました。昼食は恒例のバーベキュー。各班ごとに別れて食事をしながら、安全ラリー大会の話で盛り上がっていました。



クリーンパートナー活動に汗

10月12日(金)、専攻科自動車科学生によるクリーンパートナー(清掃奉仕活動)が実施されました。この活動は、「なにか地域に貢献できることはないか」ということから、通学路のゴミを拾おうと学生会が主催して活動を行っているものであり、今年で3回目になります。出発式

の後、スクールバスに乗車しゴミ拾い開始の場所へ移動し、3班に分かれて活動を開始しました。1、2班は国道45号線の両側の歩道を町畑ガソリンスタンド付近から専攻科までの約6 km、第3班は八戸第一養護学校から専攻科までの約5 kmについて歩道周辺に捨てられているゴミ

を約2時間かけて拾いました。空き缶やペットボトル、紙パックや傘そして雑誌、何よりも一番多かったのはタバコの吸い殻でした。活動を終えて、「日頃通る道路に、たくさんのゴミが捨てられていることを知り驚きました」、「マナーの悪い人があることにびっくりしました」、また「清掃活動の必要性を強く感じました」といった感想が学生達から寄せられました。今回のゴミの量は可燃ゴミが50kg、不燃ゴミが30kgで、昨年より少なめでしたが、相当な量でした。昼食は活動の反省会も兼ねて全員でバーベキューを催して、これからも地域社会に貢献できるよう思いを新たにしていました。



平成24年9月26日～28日の3日間、介護福祉科2年生30名で東京方面に研修旅行に行ってきました。施設見学先は最高のサービスを追及されている有料老人ホーム『アライブメディケア』と盲養護老人ホーム『曙荘』の2施設でした。

この研修旅行は高齢視覚障害者の人権を尊重した介護のあり方、国際福祉機器展への参加を通し介護福祉士の知識を深める事を目的として行われています。

今回は東京青梅にある盲養護老人ホーム『曙荘』について紹介させていただきます。今年で6年目となる見学先の社会福祉法

人聖明福祉協会の理事長、本間昭雄氏自身、20歳の時に医療事故により失明した視覚障害者です。視覚障害者の福祉に役立つ事を自分の目標として、設立した盲養護老人ホームを見学させて頂きました。今年は、クラスで集めた古切手や書き損じのハガキ等を、紙袋一つ分寄付して喜んで頂きました。

本間理事長先生より「介護福祉士の職務上のニーズは高く、利用者の生活や人生と直接関わ



る専門的対人援助職としての高い資質が要求される事を誇りに、今後も努力してください」とのお話を頂き、身が引き締まる思いでした。

施設の廊下を歩く際は、目の見えない方々にぶつからない様、「ハイ、ハイ」など、声を出しながら右側歩行する事や、弱視の方でも自分の居室が分かるよ

うに原色の玄関ドアにして色分けする等、介護者が環境整備（物的・人的）をする事により利用者個々の最大限の力を生かして自立生活を送る事が、尊厳の保持に繋がっている事だと分かり大変勉強になりました。

今回の研修旅行での経験や講話を通して学生達は、自分の将来の介護福祉士像を描き、卒業まで残り僅かとなった学校生活においてクラス一同、専門的対人援助職として自己認知していこう！と新たな気持ちで取り組んでおります。

平成24年度 同窓会総会開催される！

自動車科及び介護福祉科の同窓生による、平成24年度 光星学院高等学校専攻科同窓会が、9月15日(土)午後7時より八戸プラザホテル・アーバンホールにて開催されました。同窓生相互の旧友を温め、専攻科の発展に寄与することを目的として、恩師の先生や現教職員を招き行なわれました。

先に松川会長の議事進行により同窓会総会が行なわれ、議案承認のあとに休憩を挿み懇親会が行われました。懇親会は椿副会長の主催者挨拶から始まり、日渡校長代行の「少子化の影響を受け、生徒数が減少しています

が、専攻科の益々の発展を目指してご協力をお願いします。」との趣旨で挨拶をいただきました。

山岸元副校長の乾杯により始まった懇親会は、時間を忘れ各テーブルとも話題が絶えることなく終始和やかに過ごしました。

余興のテーブル・ゲームなどでは、同伴の子供たちも参加して盛り上がり、あっという間に予定の時間となってしまい名残惜しいですが終りとなりました。



北條史也、田村龍弘 ドラフト指名される

2012年プロ野球ドラフト会議で甲子園で大活躍した北條史也と田村龍弘が阪神タイガースと千葉ロッテマリーンズにそれぞれ指名されました。本校から一度に2名の選手が指名されるのは初のことで、これで8名もの選手をプロの世界に送り込むこととなりました。

北條選手は本校に入学し4度の甲子園出場、3季連続の準優勝に遊撃手のレ

ギュラー選手として大きく貢献しました。特に第94回全国高等学校野球選手権大会では、清原選手のもつ大会記録にあと1本にせまる4本のホームランを放つなど、攻守で活躍したことが評価され、阪神タイガースに2位指名されました。

田村選手は、入学当初からずば抜けた才能を発揮しレギュラー選手として活躍してきました。早くからプロの目にとまり全国でも名前を知らない人がいないくらいの注目選手でした。甲子園に4度出場し、3本のホームランを放った打撃は超高校級と評されました。また、チームでは主将としてチームをまとめるリーダーシップもプロから高い評価をされる要因となり、千葉ロッテマリーンズに3位指名されました。

北條、田村の両選手は

素晴らしい才能をもった選手でしたが、本校に入学してからの成長も大変大きなものがありました。お互いを良き友、良きライバルとして刺激し合い、夢実現のために苦しく厳しい練習を乗り越えたからこそその結果であると思います。また、素晴らしいチームメイトにも恵まれたことで二人の存在がより輝いたと思います。八戸で学び八戸の皆様方に支えられ育てていただいたことを忘れることなく、謙虚な心もちこれから日々精進してもらいたいです。プロの厳しい世界でも活躍してくれることを願っています。



被災地の子供たちをプラハへ 心のいやし事業参加

去る7月24日から8月8日の16日間の日程で、京都洛中ロータリークラブ主催の「被災地の子供たちをプラハへ 心のいやし事業」が行われ、本校インターアクト部の3年生の出貝夏子さん（保育福祉科）と島田桜子さん（ビジネス科）の2名が参加し、チェコ共和国プラハ市へ行ってきました。これは、震災地の八戸の高校生支援として企画されたもので、八戸市内を中心に12校の2・3年生26名が参加しました。

出発前の5回のオリエンテーションでは、ロータリーのこと、震災のこと、チェコ共和国のことを学習するなどの旅行の準備が行われました。

7月24日は、京都を訪問し、午後は市長表敬訪問、夕方から京都洛中ロータリークラブで壮行会を催していただきました。

そして、7月25日にミュンヘン経由でプラハに入りました。

滞在中は、ボリスアカデミー（警察学校の寮）に宿泊し、プラハ市を拠点に、たくさんの市を表敬訪問し、震災のことを伝えました。防衛省主催のキャンプでは、現地の子供たちと交流し、カルロヴィヴァリ市、ヴィシェフラド市、プルゼン市、リベツ市での公式訪問では温かいもてなしを受けました。日本大使館官邸で、国方大使にお会いして震災のことを

伝える発表をしました。ベラ・チャフラスカさんとの運動会でも現地の子供たちとの交流があり、また、旅行中には、浪江町の小学生にも会うことができました。チェコでは日本企業の工場があり、現地の人たちがたくさん働いていること、日本語を勉強している人たちがたくさんいることがわかりました。ホームステイでもたくさんの思い出を作ることができました。

旅行を通じて、震災のことを伝え、チェコの芸術や文化や歴史を学び、現地の方々の優しさに触れ、貴重な経験をたくさん得ることができました。今回の貴重な体験は、今後の学校生活に多に生かしていきたいと思っています。



高校生のための講演会



日立製作所名誉顧問、さらに日立製作所技術士顧問、NPO法人日立理科クラブ代表理事である佐藤一男氏をお迎えしての「高校生のための講演会」が、10月9日、光星高校体育館を会場に開催された。

佐藤氏の幼少時代は終戦直後ということで、食べることに精いっぱいだったとのこと。ただ、父親の仕事柄、たけうま・ラケットなど何でも自分で作り遊んでい

たという経験と、中学生という多感な時期にラジオ制作での感動と貴重な体験が、佐藤氏のモノづくりの人生に大きく影響したそうである。日立製作所では、数々のプロジェクトを手がけ成功をおさめた実績の裏には、苦勞と葛藤、失敗と挫折があり、これらが、経験・知識として支えてくれたのだと語られた。演題の『モノづくり大好き人間』とは、まさに佐藤氏の人生を象徴する言葉だと感じた。

P T A活動（上半期）

盛り沢山

今年度のP T A活動も上半期を終え、様々な活動を通じて保護者間の交流もあり、学校へもたくさんの協力がなされた。

母親委員会では2回の研修会を開催した。第1回「系列上級学校見学」は大変好評で進路に関する関心の高さを感じた。第2回「トールペインティング」では、楽しくほっとする一時を過ごし、作品も満足できるできばえだった。

健全育成委員会では二度の登校時一声運動を始め、プランターの世話企画など実施。

広報委員会発行の広報紙「東雲21号」も新企画で更に充実したものになった。

全体活動では、三八地区・県・東北・全国大会へそれぞれ参加し見聞を広めた。研修旅行は岩手県遠野への日帰り旅行実施。44名の参加があり楽しい一日を過ご

した。夏の甲子園大会に向けての街頭募金活動は硬式野球部保護者と協力して実施。更に光星祭でのP T A展では、従来の販売・バザーに加えて大鍋でのせんべい汁も販売し、大変好評であった。

今後第3回母親研修会、東雲22号発行、更には3学年の卒業祝賀会に向け企画等を計画中である。



光星祭「創造～創ろう僕らの青春～」

平成24年度第43回光星祭は10月13日・14日に行われました。初日朝の小雨を除けば天候に恵まれ、3000名を超える来校者においでいただきました。オープニングは「幼稚園児によるお遊技」でした。とても可愛らしかったです。普通科の硬式野球・甲子園展と研究論文発表。ビジネス科のバザーと調査研究。工業技術科の充電システムとシミュレーターシステム及び生徒作品展示。保育福祉科の幼稚園保育園の年中行事や祭り櫓と迷路、手作りおもちゃ・絵本等の保育展、福祉研究会の展示・シュシュの販売の福祉展等、興味深い展示がいっぱいでした。また、部活動も書道・インターアクト・美術・

文芸・囲碁・茶道・図書・編集委員などの部活動展があり、その他バザー等のPTA展・学院展・カンボジア展・南部裂き織り他展・企業展・自動車学校展など見所満載でした。我が生徒会でもクラスTシャツに担任の写真とコメントを添えて展示しました。イベント盛り上げグッズを販売して、売上全部を東日本大震災に寄付することにしました。イベントでは「いたばしかずゆきさんミニコンサート」「吹奏楽部演奏会」「チェンターさんスピーチ」「ピアノ愛好会演奏会」「チアリーディング部」「何でもパフォーマンス」「紙飛行機飛ばし大会」「創作ダンス」「カラオケ大会」等が祭りを盛り上げま

した。また、2日間、部活動の模擬店がお腹を満たしてくれました。どの部活動も美味で大満足です。朝市から出店のプロの味もさすがでした。後夜祭ではカラオケの決勝大会が行われ、2年連続でビジネス科の淡路君が優勝しました。「光星アワード2012」ではスポーツ賞が硬式野球部、文化賞が演劇部、特別賞がピアノ愛好会に授与されました。菅井満里奈さんのピアノ演奏も最高でした。準備期間や当日は忙しいけれど、充実した、心に残る光星祭でした。おいでくださった皆様に感謝いたします。ありがとうございました。



青森県高校 総合文化祭で 活躍

平成24年度の青森県高校総合文化祭では、各部とも活躍を見せています。また、デーリー東北新聞感想文でも入賞するなどの活躍をみせている。



KG	KG	KG	KG	KG	KG
第33回青森県高等学校総合文化祭 入選 「私たちが生きていく」 稲村 安純(階上)	第33回青森県高等学校総合文化祭 門部 「私たちが生きていく」 稲村 安純(階上)	第33回青森県高等学校総合文化祭 門部 「私たちが生きていく」 稲村 安純(階上)	第33回青森県高等学校総合文化祭 門部 「私たちが生きていく」 稲村 安純(階上)	第33回青森県高等学校総合文化祭 門部 「私たちが生きていく」 稲村 安純(階上)	第33回青森県高等学校総合文化祭 門部 「私たちが生きていく」 稲村 安純(階上)
第36回全国高等学校総合文化祭 文化連盟賞 「私たちが生きていく」 稲村 安純(階上)	第36回全国高等学校総合文化祭 文化連盟賞 「私たちが生きていく」 稲村 安純(階上)	第36回全国高等学校総合文化祭 文化連盟賞 「私たちが生きていく」 稲村 安純(階上)	第36回全国高等学校総合文化祭 文化連盟賞 「私たちが生きていく」 稲村 安純(階上)	第36回全国高等学校総合文化祭 文化連盟賞 「私たちが生きていく」 稲村 安純(階上)	第36回全国高等学校総合文化祭 文化連盟賞 「私たちが生きていく」 稲村 安純(階上)
第36回全国高等学校総合文化祭 文化連盟賞 「私たちが生きていく」 稲村 安純(階上)	第36回全国高等学校総合文化祭 文化連盟賞 「私たちが生きていく」 稲村 安純(階上)	第36回全国高等学校総合文化祭 文化連盟賞 「私たちが生きていく」 稲村 安純(階上)	第36回全国高等学校総合文化祭 文化連盟賞 「私たちが生きていく」 稲村 安純(階上)	第36回全国高等学校総合文化祭 文化連盟賞 「私たちが生きていく」 稲村 安純(階上)	第36回全国高等学校総合文化祭 文化連盟賞 「私たちが生きていく」 稲村 安純(階上)
第36回全国高等学校総合文化祭 文化連盟賞 「私たちが生きていく」 稲村 安純(階上)	第36回全国高等学校総合文化祭 文化連盟賞 「私たちが生きていく」 稲村 安純(階上)	第36回全国高等学校総合文化祭 文化連盟賞 「私たちが生きていく」 稲村 安純(階上)	第36回全国高等学校総合文化祭 文化連盟賞 「私たちが生きていく」 稲村 安純(階上)	第36回全国高等学校総合文化祭 文化連盟賞 「私たちが生きていく」 稲村 安純(階上)	第36回全国高等学校総合文化祭 文化連盟賞 「私たちが生きていく」 稲村 安純(階上)

新たなページ・・・創立40周年記念式典を挙行

本校は今年度、学校創立40周年を迎えた。その記念式典が10月3日に本校体育館で挙行された。

記念式典では、学校長が式辞の中で「校訓に込められたものを吟味して、地域社会の期待に応え、良き歴史の積み上げを推し進める」と述べた。その後、理事長挨拶や来賓祝辞の後を受けて、生徒会長が「喜びと誓いの言葉」の中で、「新たなページを記すために勉学にスポーツに勤しみ励む」ことを誓って、式典は終了した。

その後、引き続き八戸大学学長の

真樹先生の記念講演が行われた。

「運命など無い、未来は君たちが決めている」の演題で、大谷学長は「若い頃は運命を呪っていた時がある。でも、自分の選択によって人生は変えられる。皆チャレンジするという選択をしたから今がある。自分の夢を決め、計画的に取り組もう。夢のロードマップを作りなさい」と述べて「挑戦する権利と失敗する自由」を提唱した。たくさんのアドバイスを述べ、激励のメッセージを送った。

35周年の記念式典の5年後ということで、質素な式典となったが、式典の最後に校歌を声高らかに歌う表情や講演中に講師のメッセージにうなづく生徒の姿から未来に向けて邁進する気概を感じる一日であったといえる。

次に迎える50周年の大きな節目に向けて、野辺地西高校は更なる歩みを進めている。



秋の津軽路へーPTA研修旅行ー

9月30日の日曜日、今回の研修旅行の行き先は風の強い岬、津軽半島でした。

恒例であるPTA研修旅行は、野辺地はあいにくの天候で、このまま雨のままなのかと思い、参加者が落胆している様子が伺えたもののバスは一路竜飛崎をめざしました。

青森市内に入るとすっかり雨が上がり、青空が見えてきました。バスのなかでは終始笑い声が絶えず参加者の気持ちも明るくなっているように感じられました。

目的地に近づくにつれて景色も変化し、陸奥湾を一望、対岸の下半島、そして北海道も見えましたが、天気良ければよりよく見えるとのことでした。



竜飛崎に登ると海峡を挟み北海道が見渡すことができました、とても風が強く感じられましたが、近くの売店の方々からお話を伺うと、

「今日は比較的に弱いですよ」と言われ普段はどのくらいの風速であるかと思いました。

岬から降りてくると『階段国道（国道339号線）』があり、道を下るとまた登って来なければならず大変だと思ながらも、若い先生は果敢にもチャレンジしてさわやかな汗をかいていました。また、石川さゆりの歌碑では何度も津軽海峡冬景色を聞き、この場所での冬の厳しさを感じることができました。更には、この



下を青函トンネルが通っており、先人の掘削作業の困難さを実感しました。

近くの宿で休憩や昼食をとりながら親睦を深めながら料理に舌鼓をうち、穏やかな時間を過ごしました。

その後、竜泊ラインを通り、車窓から霧で見え隠れする日本海や北海道を眺めながら帰路につきました。

今回の研修旅行では、竜飛崎では風に話かけるなどしての時間を過ごし、また竜泊ラインでは景色の素晴らしさに目を奪われながらの旅行でした。保護者の方々とも親交を深め、清秋の一日を過ごすことができました。

第38回 野西高祭を終えて

10月20日(土)・21日(日)の両日、「～心に刻む青春の1ページ～」のテーマのもと、野西高祭が盛大に開催されました。

初日は校内開催とし、日曜日は、一般公開いたしました。(幸い天候にも恵まれ)、多数の来校者を迎えることができました。

展示部門は総合学科展、文化部展、クラス展、創立40周年記念展を設けました。本校の特色である総合学科の特徴を理解していただけるよう、系列ごとにわかりやすくまとめられ工夫された内容のものでした。文化部(写真部)展では、今年

で13回目の参加となる「野辺地祇園祭」の山車の製作から・運行・そして、地域の方々との交流の場等を詳しく写真に収めた展示でした。また、本校は今年で創立40年を迎えました。「創立40周年のあゆみ展」では一般客や在校生が40年間のこれまでの歴史について大変興味深く見っていました。「模擬店」は、先輩方が作成し保管されていた屋台形式の「こみせ」を用い、きれいに飾りつけ、販売場所を確保していました。

イベントの内容は、初日がカラオケ大会、卒業生によるヒップホップダンス、

2日目がちびっ子レスリング大会、りんご娘コンサートと多彩なイベントを準備しました。初日の「カラオケ大会」と2日目に実施された「りんご娘コンサート」は、創立40周年を迎えた野西高祭の雰囲気大いに盛り上げるものとなり、活気に満ちたイベントが展開できました。

まだまだ内容に改善の声も多く、今後、更に充実した内容にするべく、生徒会を中心に今年度の反省を踏まえ、次年度の計画が始まったようです。



第33回青森県高等学校総合文化祭(東青・下北大会) 青少年赤十字部門大会に参加してーボランティア部ー

10月6日(土)に県立青森中央高校において、第33回青森県高等学校総合文化祭(東青・下北大会) 青少年赤十字部門大会が開催されました。今年のテーマである「育てよう 赤十字の心」のもと、各学校が、この一年の活動の成果をさまざまな形で披露しました。

私たちの学校は、展示の部 壁新聞コンテストに新聞を出展しました。上十三地区青少年赤十字高校トレーニングセンターでの合宿の様子や、野辺地町で毎年八月に行われる「のへじ祇園祭り」の祇園囃子の演奏風景などを盛り込み、部員一人ひとりが精一杯活動をした様子を文章や写真で表現することができました。

壁新聞を他学校の生徒たちに分かり易

く表現し、魅力的な内容に仕上げることで、私たちの毎年のテーマであるけれども、なかなかそれで難しいなあと感じてしまいます。部員は、人間福祉系列の生徒がほとんどなので、授業を通して、おりがみや造形などを学習しています。それでも、それらの知識を使い一つの作品を仕上げることは苦労の連続でした。

しかし、部の顧問である柴崎先生のアドバイスもあり、部員は悪戦苦闘しながら、工夫を凝らし完成することができました。

「終わったあ。」と短期集中した作業をお互い苦労をなぐさめあい、ホッとするのです。

私たちの目標は、壁新聞コンテストで賞を取ることです。今回の他校の作品を見て、反省点や課題点も見えてきました。それらを次回へ活かすことができるように部員一人ひとりに努力をしてもらいたいと感じました。



のへじ祇園祭り「信長 教盛を舞う」で生徒、園児が町を練り歩き

8月19日(日)野辺地町のお祭り「のへじ祇園まつり」の最終日、山車の町内合同運行に本校も参加、生徒とびわの幼稚園園児など約120名が、約1時間半にわたり町を練り歩き、町の伝統のお祭りに華を添えた。これまで参加の回数を重ね、今年で13回目の出陣となった。

本校は、4日間行われるこのお祭りには、初日の野辺地八幡宮での「宵宮祭」(各祭典部参拝)と最終日「山車合同運行」の2日のみである。本校の山車は、生徒・職員合同の手作りといえ、年を重ねるごとになかなかの出来栄となっており、若者の参加が少なくなっている昨今、本校にける町の期待も大きくなっている。

毎年この山車運行には、のへじ祇園囃子保存部、レスリング部・バドミントン部・空手道部が練習の合間を縫って神楽



の練習を行い参加しているが、今年は2年ぶりにサッカー部も参加、山車の牽引や着ぐるみを着て、沿道の子供たちやお年寄りたちの笑顔を引き出す役を頑張ってくれた。また、部活動だけではなく、一般生徒や卒業生、さらにびわの幼稚園の園児と保護者も加わり、短い夏祭りのひとときを楽しんでいた。また、休憩時



間には、PTAの方々手作りの「お弁当」を準備、手渡されたみんなはうれしそうな顔で、おいしそうに頬張っていた。

本校の祭り参加は、生徒・職員・保護者、びわの幼稚園の園児・保護者、野辺地地区の力が結集された大きなイベントとなり、祭りを見に来た多くの人たちの心に焼き付いたに違いない。



野西高トピックス 光星高校との交流

甲子園大会体育館から大声援

8月23日(木)、全校生徒が夏の甲子園大会を体育館で観戦し、頂点を目指して頑張る選手たちに声援を送りました。



甲子園大会準優勝報告

9月18日(火)、夏の甲子園大会で準優勝した光星高校硬式野球部の監督、選手が本校を訪れました。8月23日(木)に行われた決勝戦を戦い、同試合を本校が体育館で全校応援したことへのお礼と準優勝となった報告に来校しました。



タン・チェンターさん講演

10月9日(火)にカンボジアから光星高校に留学して来ているタン・チェンターさんが本校を訪れ、自国の事情や留学での体験を流暢な日本語で話してくれました。



八戸短期大学附属幼稚園

安心・安全な園づくり

幼稚園の安心・安全対策を考える場合、大切な子ども達を預かる教育現場では、事故や怪我について家庭以上に気をつけていなければなりません。集団生活の中では、小さな事故まで完全に防止することは大変なことです。園内の安心・安全について常に職員が心がけ、具体的なマニュアルを園独自で作成しておくことが重要なことです。

本園では、避難訓練の実施は勿論です

が、職員会議でマニュアルを確認し子ども達が安全に幼稚園の生活ができるようにしています。

- ・子どもの安全を確保しながら職員が柔軟に動けるような役割分担
- ・情報発信を強化し保護者に安心感をもたせること
- ・メール一斉配信により緊急時の連絡の徹底

このポイントを共通理解したうえで、預かり保育の避難訓練を実施しました。

子ども達がお昼寝中の場合、職員がスクールバスで送迎している場合等、臨機応変に判断し素早く行動に移す力が求められます。

危機管理は、火災、地震などだけではなくインフルエンザなどの感染症等を含めて安心、安全な園づくり

に職員一丸となって取り組む事が子ども達の命を守る「園の防災」につながると考えます。



聖アンナ幼稚園



10月17日は、子どもたちが楽しみにしていた料理会でした。

メニューは、旬の素材を使った、さつま汁、きのこご飯、ほうれん草とにんじんのごま和えです。にんじんは、春に園庭に植えたものを、子どもたちが収穫しました。きのこを子房に分ける、包丁で野菜を切る、ほうれん草を茹でるなど、満3歳児から年長児まで全員が楽しんで参加し、自分たちが作った昼食を満足そうに美味しくいただきました。



教育講演会 ～モンテソーリ教育と子どもの運動遊び～

10月の保育参観の日に、八戸短期大学教授 橋本妙子先生を講師にお迎えして、教育講演会が開催されました。幼児期には、運動遊びを通して体を動かすことの楽しさを実感し、達成感や満足感を持ってお友達と触れ合い、喜びを共有していく体験が大切であるというお話でした。さらに、先生ご自身の子育ての体験を交えてのお話しでは、子どもの興味や意欲が何よりも大切であることを教えていただきました。保護者の方々からは「子育てママへの応援歌のような話でした。」「先生の子育て体験談から、子どもの大人になるまでの成長を考えることができました。」「意欲のもとには体力という言葉に納得しました。」「…などの声が寄せられました。



第二しなのめ幼稚園

ハロウィンをたのしんだよ

10月30日は、子どもたちに英語の楽しさを教えてくださっているアンソニー先生と未就園児さん、幼稚園の子どもたちと一緒に楽しみにしていたハッピーハロウィンの一日を過ごしました。

朝から子どもたちは素敵な衣装に身を包みわくわく嬉しそう。王子様、お姫様、忍者、サンタクロース、騎士、宇宙人、よう精など等

アンソニー先生からはハロウィンにま

つわる、魔女、オバケ、ドラキュラ、バンパイア、かぼちゃ等の言葉を英語で教えていただきました。英語の発音がきれいだとほめられました。この日の園内は子どもたちが良く知っているお話の部屋に模様がえして、楽しいゲームの世界を用意しました。ホースの中にビー玉を転がし落とす「部屋」「大きなかぶ」の部屋では、かぶやおじいさん、まごむすめ等お話にでてくる人物をぴったりあわせ



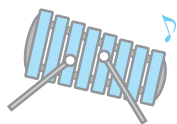
るゲーム。「ヘンゼルとグレーテルお菓子の家」のお部屋ではかぼちゃのオバケの大きな口の中にボールを投げ込んだり。いろいろおもしろいゲームに挑戦しながらお部屋を回る子どもたちは、たくさんのいたずら(?)をたっぷり楽しんだようです。もちろんおたのしみおいしいお菓子もいただきました。

いつのまにかホールには、マイケルジャクソンの「スリラー」の曲が流れ始めました。

にこにこ顔の子どもたちは、かっこいいリズムを身体で刻みながら、リンボーダンスをしたり、手拍子を鳴らしたりしながら、楽しいハロウィンの時間をすごしました。



びわの幼稚園



防火パレードに参加



びわの幼稚園では、10月15日(月)秋の火災予防運動の一つとして、地域住民の防火意識を高めるため、幼年消防クラブ員による防火パレードを行いました。

びわの幼稚園幼年消防クラブは昭和59年10月に結成され、翌、昭和60年に第一回目の町内防火パレードに参加して以来、今年で28回目のパレード参加となりました。

パレードは、野辺地老人ホーム前駐車場で年長児による鼓笛隊演奏から始ま

り、セレモニー会場の野辺地町中央公民館までの距離、約1kmを町長さん、消防署長さんたちが先頭となり行進しました。

駐車場前での演奏は赤いベストとベレー帽姿で、それぞれが担当する楽器を手にご父母の方々、町内の皆様の前で緊張しながらも立派に演奏を行いました。

パレードでは、鼓笛隊の後に防火の半纏をまとった拍子木隊が整列し、ビデオ撮影をするご父母とともに、「火の用心・・・カチ、カチ」、「火の用心・・・カチ、カチ」と元気に声を合わせながら拍子木を打ち町民の防火意識の高揚に努めました。

そして、セレモニー会場では年長児による鼓笛隊演奏を披露した後に、実際に消防ホースから放水する消防ポンプ操法、小さな半纏をまとった消防クラブ員全員による防火の誓い宣言を行いました。

消防ポンプ操法では、ヘルメット着帽、小さな消防士姿のクラブ員が

きびきびと会場内を走り回り、「放水はじめ!」の号令とともに勢い良く放水される水を操り、「放水やめ!」、「はい!」、「よし!」、「1番員異常なし!」、「2番員異常なし!」等の菌切れの良い動作、発声から、多くの保護者の方々、町内の皆様から暖かい言葉をいただきました。

最後に、町長さんからもお褒めの言葉をいただき、28回目のびわの幼稚園幼年消防クラブ員による防火パレードが終了しました。

パレードに参加した園児達は、消防署の皆さんからいただいたおやつ袋を手に誇らしげに笑みを浮かべておりました。



光星学院イノベーションプログラム（基金） 寄付者ご芳名

平成19年度以降寄付金累計額 178,102,796円

平成23年度 20,809,659円（寄付協力者312名）

(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

次の方々よりご寄付を賜りました。皆様の温かいご支援に感謝申し上げます。

(順不同、敬称略)

八八八八八八八八八八
 戸戸戸戸戸戸戸戸戸戸
 星地地地地地地地地地
 野邊邊邊邊邊邊邊邊邊
 野法
 望修功子景治實悅孝勉稔文広子子治織子貴聖年則子美一裕人信敬郎眸織美圭雪紀潤浩恵孝子美子香江子成
 あ久基隆博喜伶淑謙香佳仁巧千美祐博順昭将友千慎香芽深正和嘉徳佳久敦は友菜牧友
 川中村本橋沢本藤寺野坂口野尾原口野泉澤田本垣濱飼内田泉部村澤山島谷國本村保岡橋澤田藤場坪川鳥戸田部
 小田中橋板小村佐小中赤田上松松川上平漆下橋西小鶴堀迫島小宿川成中高加三松北久坂土足高佐橋橘葺清長夏山川名
 子惠美乙子子子子子佳美美生子子勇策子子世宏希子子香典平子和子春子江裕美香恵樹ン美文泰ル子郎功里々太
 患千文由三み寿令雪久靖美真由保美生子華淳憲秀麻衣治千直由美聰春和淳妙雅郁千美成千知麗朋真綾正俊フオス紀祐恵奈孝
 藤藤浦田井浦生村木原内藤藤浦織池沢名田村安口館成飼馬満一田間本摩藤藤藤寺中藤戸沢谷グ・藤村頭タ元藤田合垣中
 佐佐三蛭土三壬中仁下山佐佐三岩小小蛇附川仲川岩富鶴相天金三天橋天後工工小山安一黒大バリ齊田鬼マル井工事道西畑
 久實八喜晶模豊樹志出広明逸仁吾晃一治弘保治子子え里野子子み子子悦光久聡み裕一子彪広次由明子子生行
 純正慶美秀高喜寛寿富賢悟考広典康いとさ香沙玲嘉祥ひ幸咲香由純国辛め克ソ敦正弘陵寿主典弥俊
 山國中葉戸賀沢地内木部谷田岡上本木狭坂村崎合田出館崎村場木田閑藤藤倉橋川川部ア口川田崎邊守内木村橋
 青三田岩穴伊南長苔山海梅鳥鑊成浪三坂鈴若小木柴道滝東岩下木馬河吉大佐扇松松纖早古掘樺G浜石桑柿渡島原茂三高
 則章仁正夫一以修成文寬幸二男男司子子子亨寛一基り勝彦亮子文子介美彩吾春則実三雄子行香涉代し博之作行美実
 昌裕正精和一博正祐多公裕千凉康良俊宗か俊敬智清佳祐智翔良正隆文廣忠鈴英と明裕長裕亜弘
 登中松田森館家馬藤古頭田川脇川苗野浜藤浜橋村藤井田間嵐川川渚本戸村田田戸村出垣渡官橋橋居井橋川川村館藤
 能畑若安石岩類門佐宮田吉細島早蒔小横加横高中加仲太赤五池池金松三中鎌稻上木東石日法三石中永松小市舘西岩齋
 美生貫一志弘稔人透子温勝彦斉由浩司貴子美瞳恵子子則子子輝子子章樹洋子裕子子人志誠好等博博次樹夫一子一文人美
 真壽一雄貴公守佐良久良美清始淳徳英里智充勢利幸洋洋喜幸隆裕育匡章知教貫章貴祥昌富裕裕幸敬一保廣
 沼本山山舘村田藤澤幡木崎地家浪戸原岸藤沢藤村崎田端川井林山島村合川崎谷松入坂井渡保本島場橋村岡西中井場山
 岡岩晴櫛新正吉遠瀧小三篠金類岩纖小山工柳伊中外附田関丸小杉三上道早村島小金小九小大坂田馬高中沼山田松橋前
 会会会同会会会同A会A会同明高隆義覺一子泉仁人司子子德親二敬一章昭樹夫泉正哲生男文卓卓郎留美靖志幸重勉子史
 援の窓一援の一T援T窓一輝久剛新郁武直寿恵尊正省浩宏博春昭浩浩峰光寿耕一千美清弘良良嗣眞
 後母同業學父學校校校長鰐林田口村官坂内関沢谷邊村田牛上口木口部村澤沢羽中野當本本良鎌川股谷村木松舘林原
 大學卒大學高等等等者門小浦蛇中法高小大黒納磯中吉飼村蛇鈴出服戸小大丹田矢日松村奈木長猪熊川佐小戸小藤
 大大大學期大高高高係
 大短短期院西西西関
 戸戸戸短學地地地地
 戸戸戸星地地地地人



野西高祭



光星祭



光星祭



秋祭



山本雅弥 Profile

出身地：青森県三沢市
 誕生日：8月31日
 血液型：O型
 特技：血液型当て（的中率26%）
 空手初段
 趣味：ゲーム、カラオケ、散歩
 座右の銘：「適材適所」

『あの夏の約束』が今の俺！

人にはそれぞれ岐路があったり、戸惑いや決断があったりするもの。山本雅也さん（光星学院高校卒業生）が、そんな自身の“歩（あゆみ）”を10年の歳月とともに10月24日デビューシングル「あの夏の約束」をリリース。山本さんは、光星学院高校に進学後空手に所属。ここでの3年間で無ければこの詩は誕生しなかったと言い切る。ここに彼の岐路があったのである。大勢の高校生が集う学び舎「光星学院高校」で、未来を夢見る青年同士が出会う。そこに向かう自分自身の決意、それを「約束」と言い換えたのである。高校卒業後都内への大学に進学し、山本さんは空手を続け主将として全国制覇を成し遂げる。大学卒業後もミュージシャンへの志は衰えず、むしろ一層加速していった。一方、未来を語り合った友人はプロボクサーへの夢を追いつけるのである。高校生の青年に夢を手に入れる手法や根拠など無かった筈だが、彼らは追いつけ、諦めなかった…。

山本さんに「何故、諦めず幾つもの困難を乗り越えられたのか？」と訪ねると、後輩諸君へのエールを含めて次のコメントを伝えたいと語った。優しくもあり逞しくもある表情、笑顔が印象的であった。

本人からのメッセージ

今 ここにいる仲間を大事に！

目標・夢・未来を語れる友達とこれからも歩んでいってください。

メディア出演情報（一部紹介）

- ・テレビ朝日「学びEye！」毎週(月)10:25～10:55
エンディングテーマ曲 「あの夏の約束」
- ・FM青森「山本雅也 Power of Friends」 毎週(月)20:00～20:30